

生後の三年間は.....

生後三年間は、「人間の声とその他の音とまぎらわしいテレビやラジオを遠ざける」ということはむずかしいかもしれません。しかし、もし子供がそのために自閉症になったとしたら、それこそ大変です。“君子は危きに近寄らず”です。まして、最愛のわが子のために、テレビやラジオを遠ざけるのですから、多少の不便は忍んだ方が賢明というものです。少なくとも、子供の耳に届かない所に置くべきです。

人間の声とその他の音と、その処理の仕方がちゃんと分かるようになったら、今度はテレビやラジオも役に立つのですから、それまでの忍耐です。

人間の声は、心がこもっているものでなければなりません。愛の心をこめて、優しい発声で赤ちゃんの目を見つめて語りかけることが大切です。そうすれば赤ちゃんも、一所懸命にそれに答えようとするでしょう。その答えは「アーアー」とか「ウーウー」という声にしかないかも知れません。でも、その声には、赤ちゃんの心がこもっているのです。その声に、母親は答えてやらなければいけません。

こうして、言葉にならない“声”をやりとりして会話ならぬ会話をするのが、赤ちゃんにとって何よりも大切なことだ、ということをよく知っておいて頂きたいと思います。こういう“会話”を乳幼児期に繰り返しかわしていれば、必ず“声”に敏感に応ずる、暖かい心を持ち、高い知能を備えた子供になるに違いない、と思います。

生後の三年間は、こういう母親の育て方が何よりも大切であり、絶対に必要です。だから、どこの国だったか、生後の三年間は、働く母親を家庭に帰して、赤ちゃんの養育に専念させている、と聞いています。勿論、その三年間は有給です。育児こそは、社会の最大の仕事なのですから。